

平成15年度アライグマ対策行動計画概要版

平成15年3月
北海道 環境生活部 環境室 自然環境課



写真-1 牛舎に出没した親子のアライグマ (写真提供：酪農学園大学アライグマ研究会)

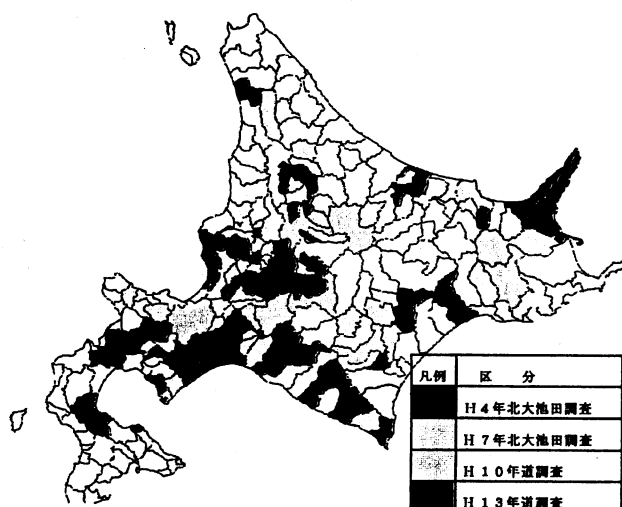


図-1 アライグマの分布の推移 (平成4年から13年)

平成4年(1992)には道央のごく一部に分布情報があるだけであったが、7年後の平成13年(2001)には道央の大部分、さらに道東にも分布を拡大している。

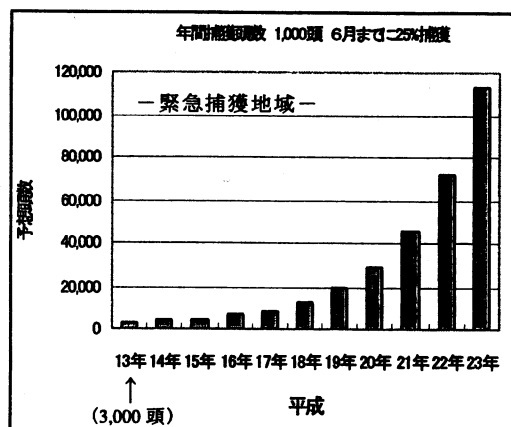


図-2 現在の水準で捕獲した場合の今後の予想

緊急捕獲地域内において、現在の水準で捕獲を継続した場合、密度効果がなければ、10年後の平成23年(2011)には現在の数十倍に増加してしまい、排除は困難である。

「北海道アライグマ対策基本方針」で以下のこと等を定めた。

- ①アライグマ対策の目的を「農業等被害の防止」、「健康被害の防止」、「生物多様性の保全」とする。
- ②アライグマ対策の最終目標を「野外からの排除」とする。
- ③道民、被害農家、狩猟者、市町村等と協力体制を構築する。
- ④目的達成のために、別に定める「アライグマ対策行動計画」に基づき、捕獲の計画的で積極的な実施を図る。

第Ⅱ章 各地域の目標設定

第Ⅰ章では、分布情報等から3地域に区分を行ったが、第Ⅱ章では3地域の特徴を明らかにした上（図-3,4）で、排除に向けてそれぞれの目標を設定した。

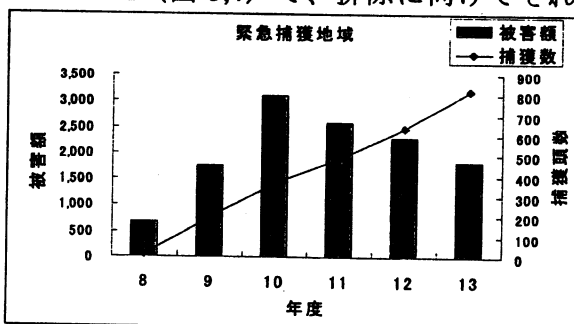


図-4 緊急捕獲地域の農業被害額等の推移

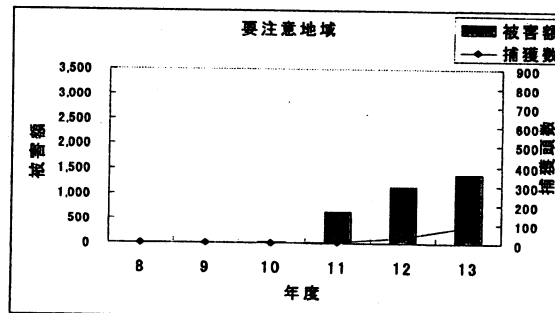


図-5 要注意地域の農業被害額等の推移

(第Ⅱ章まとめ)

三地域の排除計画

緊急捕獲地域	10力年で排除を目指す。そのためには、6月までの捕獲割合を5割まで増加し、平成15, 16年(2004, 2004)には2,000頭捕獲する必要がある。生息頭数の推定等は第Ⅲ章で行う。
要注意地域	緊急捕獲地域に準じて捕獲を実施し、分布拡大を阻止し、野外からの排除を目指す。
その他の地域	調査精度の向上と、アライグマの早めの捕獲を実施し、野外からの排除を目指す。

第Ⅲ章 緊急捕獲地域におけるアライグマの生息頭数の推定

Ⅲ-1 生息頭数の推定

平成13年(2001)末推定頭数	オス		メス	
	2歳以上	1歳	2歳以上	1歳
3,000頭(±1,000)	900頭	600頭	900頭	600頭
100%	30%	20%	30%	20%

緊急捕獲地域の中で捕獲があった85メッシュで頭数推定を行った。

Ⅲ-2 メッシュ別の密度区分

図-5にCPUE（捕獲効率）等から推定した緊急捕獲地域の密度区分図を示した。

区域の外側に生息密度の高い場所があり、緊急捕獲地域の拡大を阻止するために、今後特に注意が必要である。

CPUE（一定の捕獲努力量当たりの捕獲数）
 $CPUE = \text{捕獲頭数} \div \text{捕獲努力量}$ として求めた。
 捕獲努力量はワナ数×日数

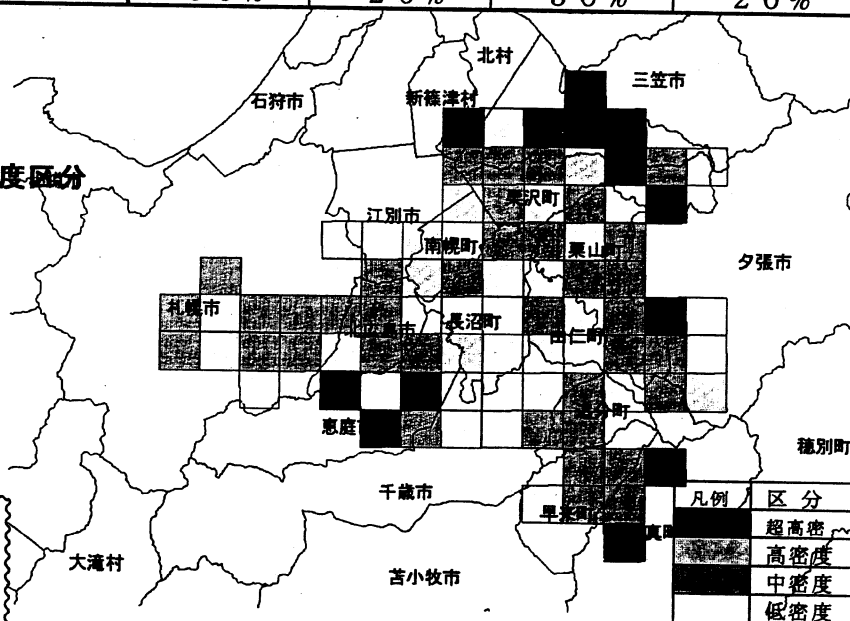


図-6 緊急捕獲地域の密度区分図

Ⅲ-3 行動計画

(1) 行動計画の基礎

アライグマが生息している全ての地域で捕獲を継続すること。